

変調
レアメタル

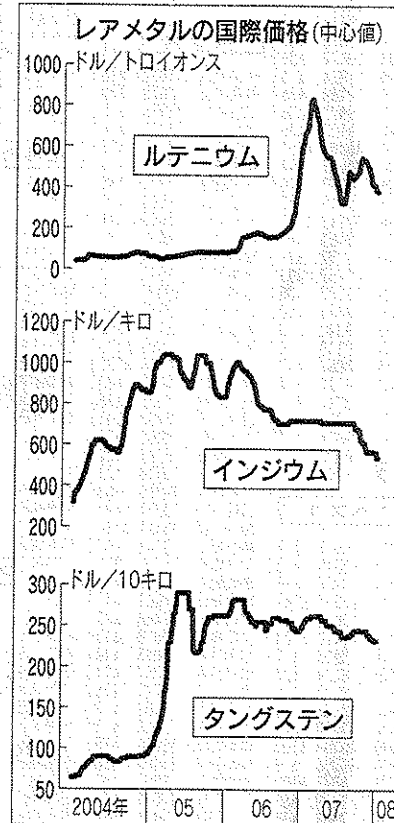
希少金属(レアメタル)の騰勢が一服してきた。リサイクル技術の進展や使用量削減など、資源節約の動きが広がり、需給が緩んだためだ。高値が続く品目でも増産などで下落に転じるとの観測が浮上、価格は転換点を迎えている。レアメタルを原材料に使う加工品業界では、値決め方式が変わる例も始まった。

需給緩和で騰勢一服

ハードディスク材料などになるルテニウム。ルテニウム加工品最大手のフルヤ金属は七日、茨城県土浦市に新しいリサイクル工場を稼働させた。

資源節約の動き広がる

ハードディスクの生産工程などで出るスクラップを回収し、ルテニウムの地金を再生する。新工場は三月にフル稼働の態勢が整い、同県筑西市の第一工場と合



んだ結果、反落した。液晶パネルの電極材にインジウムでは、DOW Aグループやアサヒpriteックなどがリサイクル能力を増強。総需要に占める再生品の割合は六割に達した。インジウムの国際価格は〇五年には一キロ四〇〇(中心値)と三年で十二倍に跳ね上がったが、現在は五四〇(中心値)と高値から四八%下がった。

需要家の使用量削減が下がりにつなげたレアメタルもある。超硬ドリルの主原料タングステン。以前は刃を支える軸もタングステン合金製だったが、〇五年ごろから割安なステンレ

スに替わった。「プリント基板の穴開けに使うドリルの場合、一台当たりのタンクステン使用量は従来の十分の一に減った」(超硬ドリル最大手の三菱マテリアル)。国際価格は過去最高値の〇五年より二割安い。これらのレアメタルは日本が大口需要家という共通点があり、リサイクルなど

の取り組みもそれだけ熱が

